

# フューチャー・デザインを活用した 総合計画策定

2020.1.25 (土)

岩手県矢巾町企画財政課

課長補佐 高橋雅明

# 本日の報告内容

1. 矢巾町について
2. 総合計画策定へのフューチャー・デザインの導入
3. フューチャー・デザインを活用した住民アンケート
4. フューチャー・デザインを活用した住民ワークショップ
5. ワークショップ成果を反映した総合計画案の形成
6. 今後の展望について

# 1. 矢巾町について



YAHABA TOWN



岩手医科大学と附属病院が移転

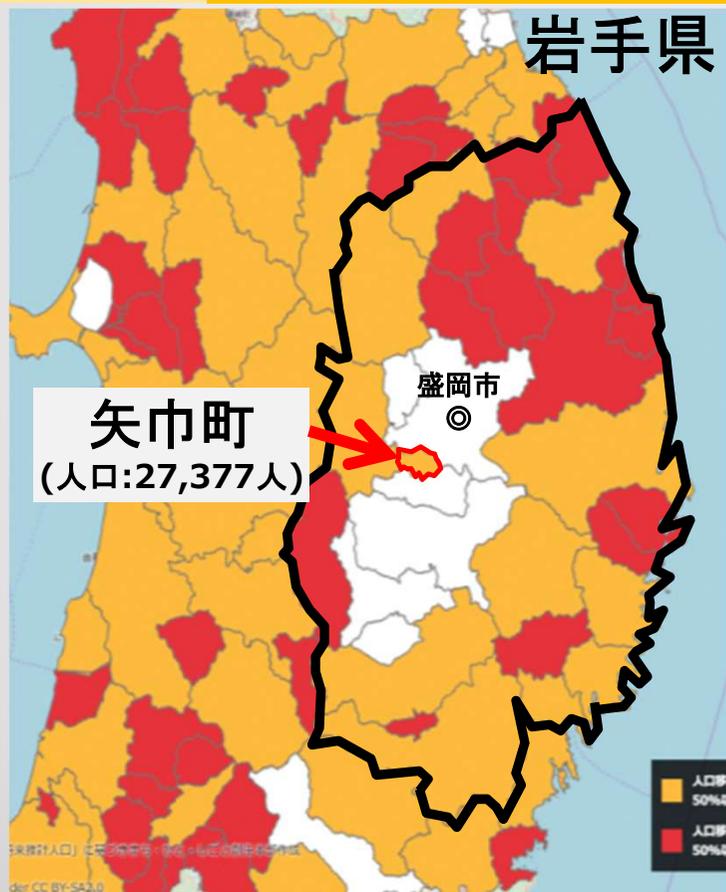


都市基盤が整備された矢幅駅周辺



田園風景が広がる豊かな自然

# 矢巾町の概要



## ● コンパクトな田園都市

岩手県の中央部に位置し、面積は67.32km<sup>2</sup>。県庁所在地・盛岡市の南に隣接し、都市と農村がほどよく調和した田園都市です。

## ● 交通の要所

国道4号線、東北自動車道、JR東北本線が南北を貫き、平成30年には東北自動車道矢巾スマートインターチェンジが供用開始となりました。

## ● 北東北の流通拠点

岩手産業流通センターが立地し、北東北の流通の拠点となっています。

## ● 学園地域と県内医療の拠点

町内に岩手医科大学や岩手産業技術短期大学、県立不来方高校が立地している学園都市です。また令和元年9月には、県内の最大医療拠点である岩手医科大学附属病院が移転し、交流人口が増加傾向にあります。

## ● 健康日本一を目指すまち

町内には岩手医科大学附属病院をはじめ、医療・福祉関係の施設が充実しています。また健康づくりに力を入れており、岩手県内での長寿率はトップクラスです。

## 2. 総合計画策定への フューチャー・デザイン導入

# 総合計画とは

- 自治体のすべての計画の基本となる、行政運営の総合的な指針となる計画。
- 2010年度まで、全市町村に総合計画（基本構想）の策定が義務付けられていた。
- 現在は策定義務はないが、矢巾町では議会の議決を経て定める最上位計画である。

## ◆基本構想

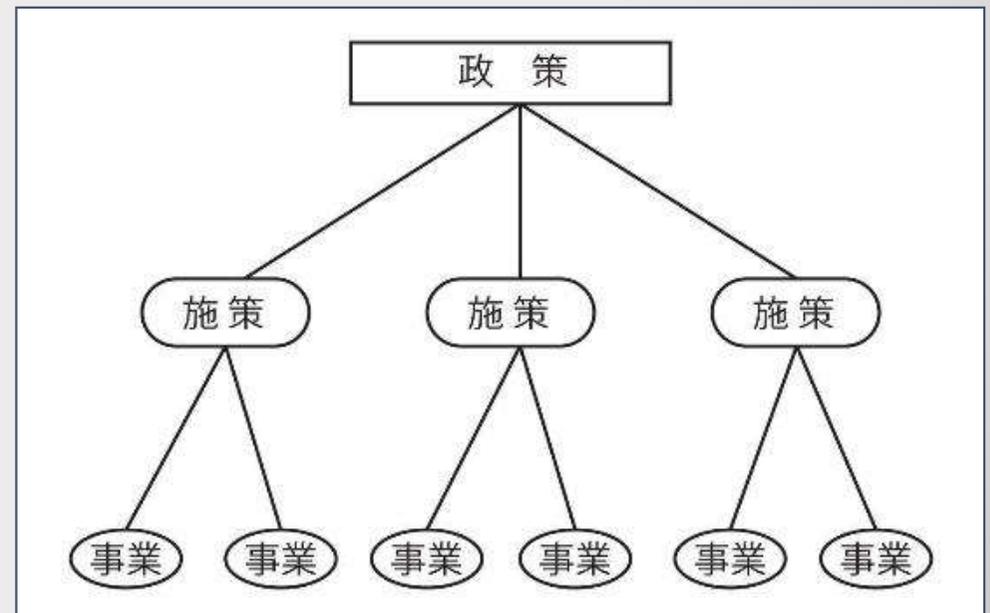
自治体の目指す将来像や目標を明らかにし、実現に向けた施策の大綱を示すもの。

## ◆基本計画

基本構想の実現のために必要な施策を体系的に明らかにするもの。

## ◆実施計画

基本計画の施策に基づき行う事業の内容や時期を明らかにするもの。

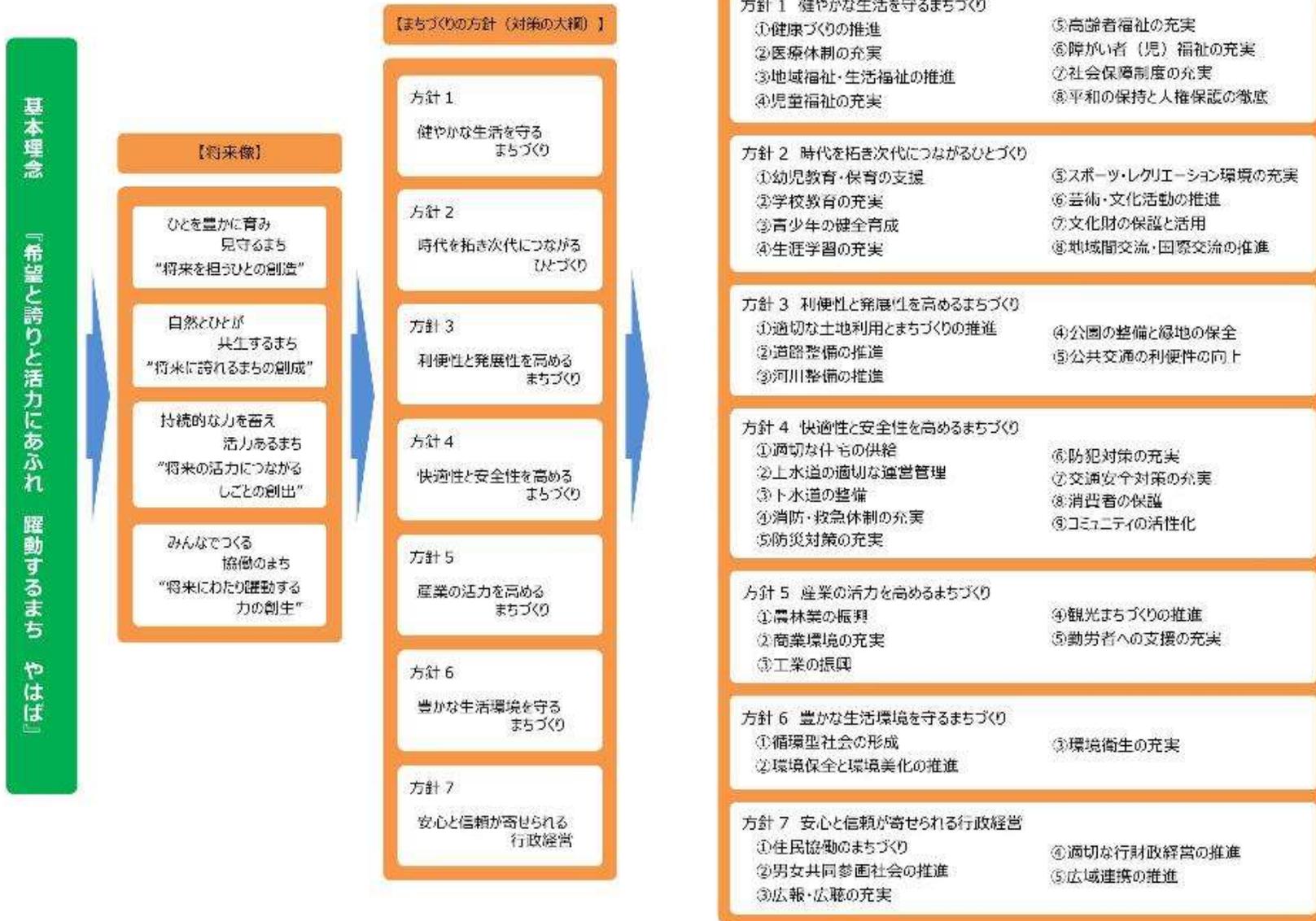


# 総合計画とは

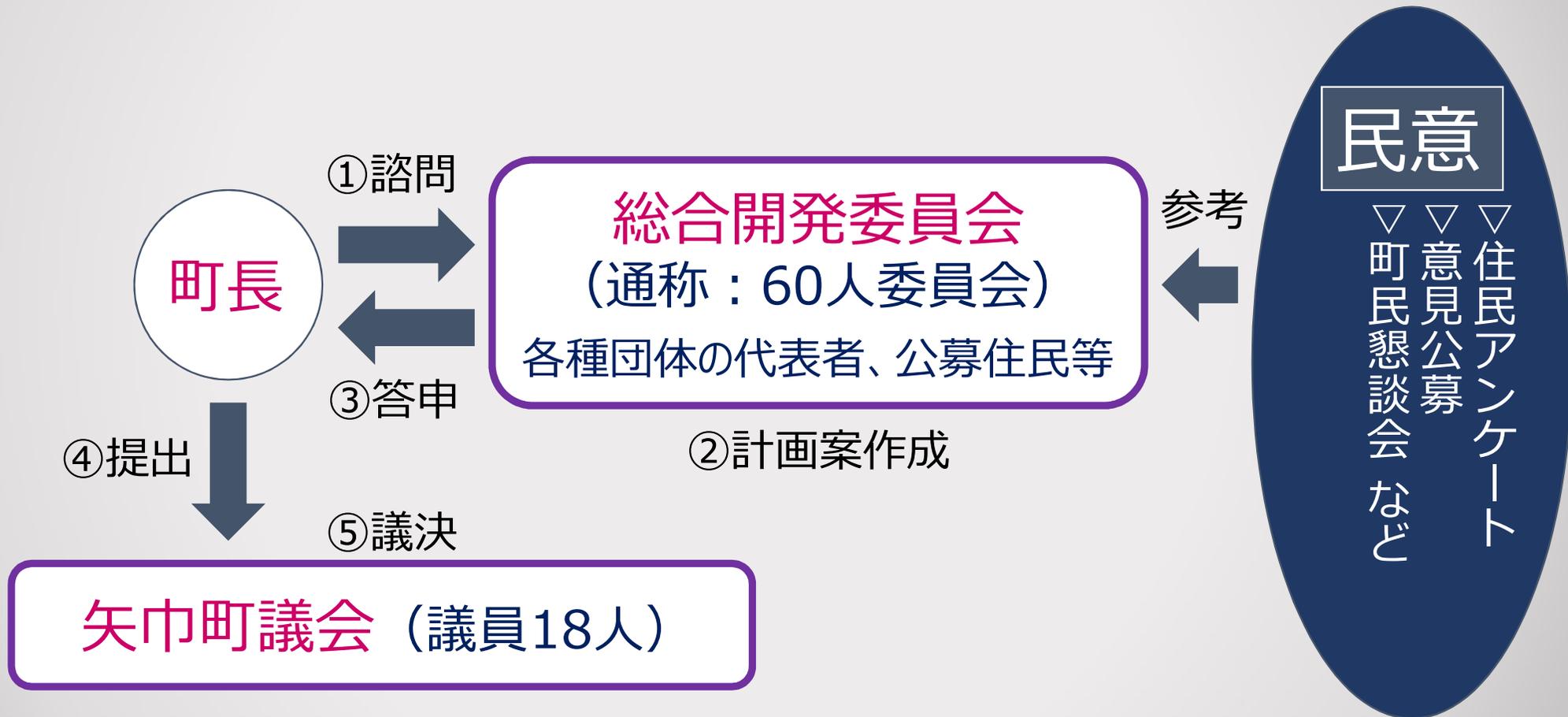
## 第7次矢巾町総合計画の概要（基本構想）

- ◆ **基本理念** 希望と誇りと活力にあふれ 躍動するまち やはば
- ◆ **計画期間** 2016 (平成28)～2023(令和5)年度 ※ 8年間
  - 前期基本計画 2016 (平成28)～2019(令和元)年度 ※ 4年間
  - 後期基本計画 2020 (令和2)～2023(令和5)年度 ※ 4年間
- ◆ **計画人口** (2016年4月 27,134人) →2023年 30,000人

# 第7次矢巾町総合計画の体系図



# 総合計画の策定方法（矢巾町）



# 総合開発委員会



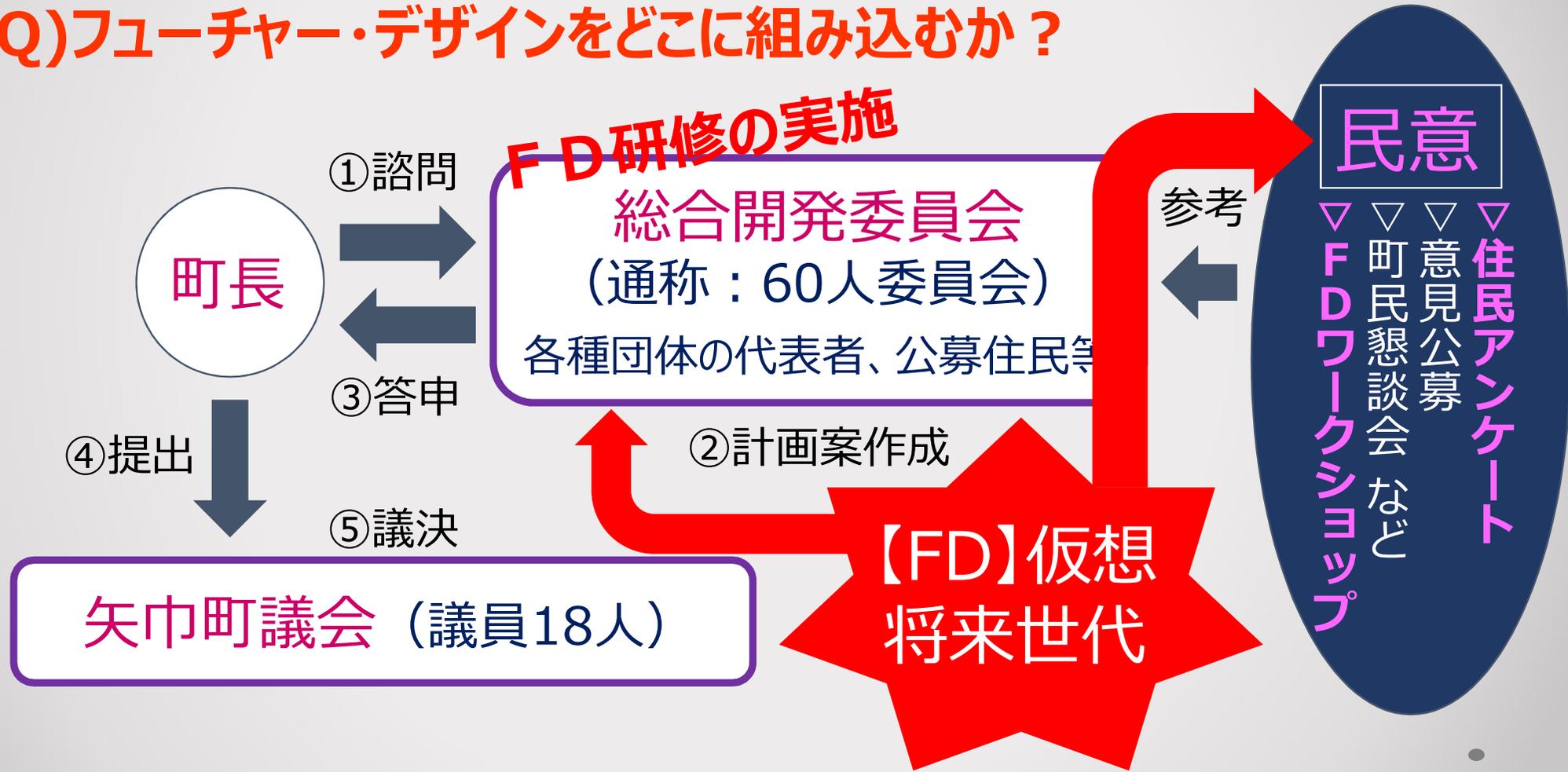
町長から委員長へ諮問



第1回委員会  
(2020.5.16)

# 総合計画の策定方法（矢巾町）

Q)フューチャー・デザインをどこに組み込むか？



# 3. フューチャー・デザインを 活用した 住民アンケート



# 総合計画のための住民アンケート

## ◆実施期間

2018(平成30)年12月28日～2019(平成31)年2月25日

◆対象 18～79歳の町民

◆送付数 2,000件（無作為抽出）

◆回収数 728件

◆回収率 36.4%

## ◆フューチャー・デザインの活用

現在目線で回答の後、アンケートの後段で、設問の一部を将来目線に置き換えて再び問い直す項目を設けた。



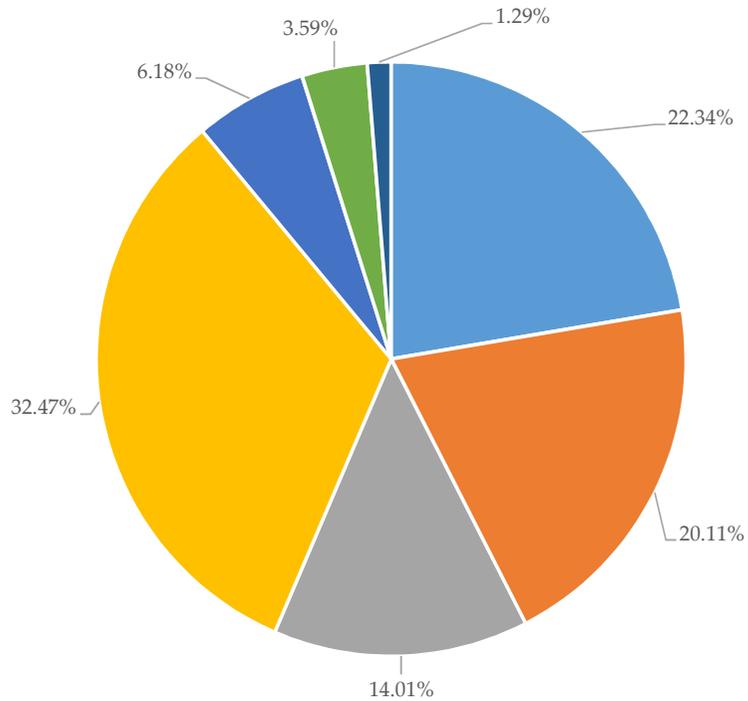
## 〔設問の例〕（将来目線）

**問30** あなたは、これから約40年後の2060年に矢巾町に住んでいる住民の皆さん（つまり2060年の将来世代）の利益や声を代弁して、今の町の施策を検討する役割が与えられているとします。2060年の矢巾町の住民の声や利益を代弁するという立場から考えていただき、**土地利用の方向性について、あなたが重要と考えるものを2つだけ選んで、番号に○印をつけてください。**

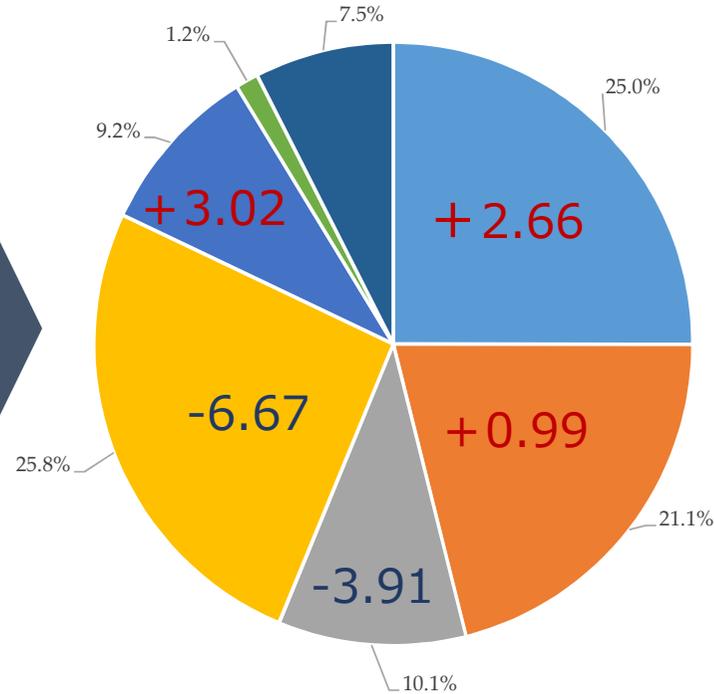
(1) …（選択肢は同じ）

# 〔設問の例〕 (回答比較)

## 問10 (現在目線)



## 問30 (将来目線)



- 自然環境の維持を優先し開発は最小限にするべきである
- 農用地の保全を中心とする土地利用の推進を図るべきである
- 宅地等開発を進めるべきである
- 地域・地区を限定して企業誘致や商工業振興のため開発を進めるべきである
- これ以上の開発は必要ない
- その他
- 無回答

# 4. フューチャー・デザインを 活用した 住民ワークショップ



# 総合計画のための住民ワークショップ

矢巾町第7次後期総合計画（後期基本計画）の策定の参考のため、フューチャーデザインの手法を活用し、町のあるべき姿とまちづくりの方向性について、意見を出していただく。（全6回）

## 【開催期日】

- 第1回 6月 1日（土）
- 第2回 6月 8日（土）
- 第3回 6月22日（土）
- 第4回 7月 6日（土）
- 第5回 7月27日（土）
- 第6回 8月17日（土）

## 【募集方法】一般公募

町内回覧チラシ、広報紙に記事掲載、  
総合開発委員・議会でのPR

## 【参加者】25人

20～70歳代  
男性18、女性7



# 総合計画のための住民ワークショップ

## 【ワークショップ各回のテーマ】

第1回 矢巾町のあゆみの振り返り①

第2回 矢巾町のあゆみの振り返り②

第3回 まちの将来像の創造（2060年頃）

第4回 将来世代からの提言①／総合計画基本構想の再点検

第5回 将来世代からの提言②

第6回 将来世代からの提言まとめ

# ワークショップの開催状況



# ワークショップの開催状況

## 【グループ討議の様子】



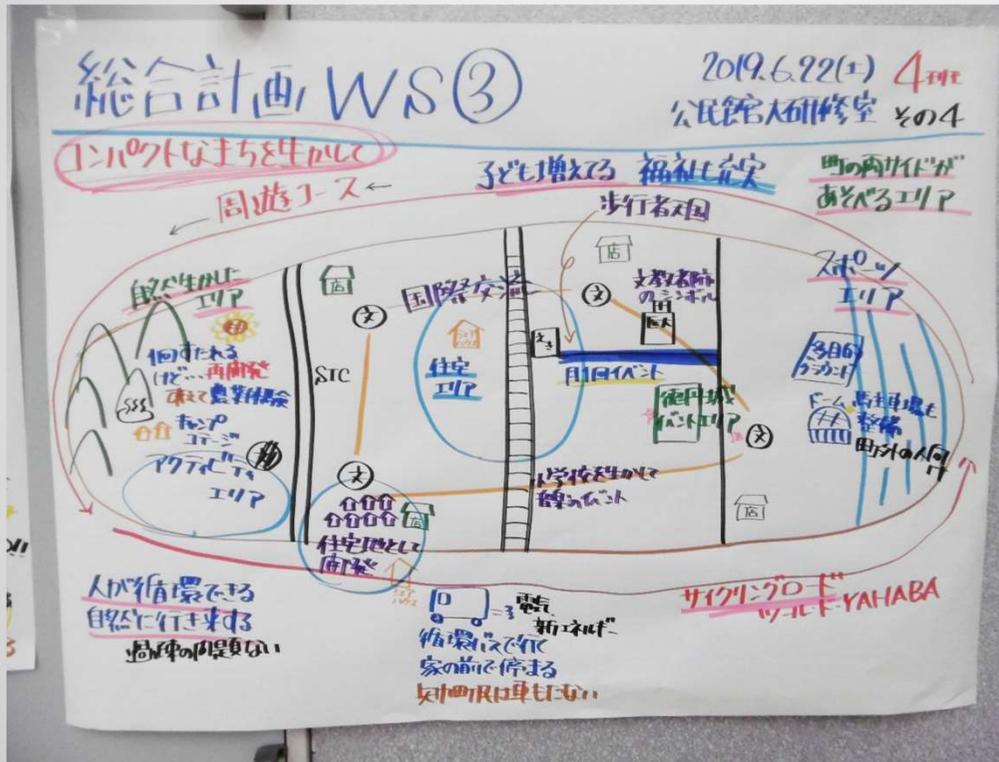
現代人としての討議（第1～2回）



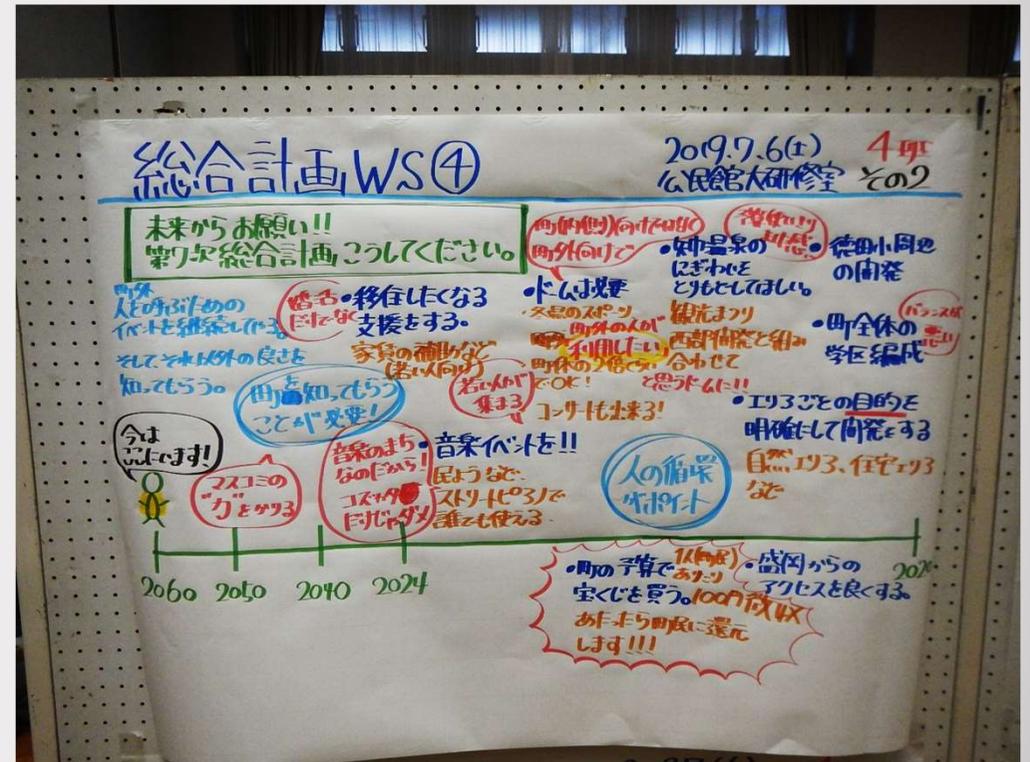
未来人としての討議（第3～6回）

# ワークショップの開催状況

## 【討議まとめの一例】



2060年の町のすがた (第3回・3班)



2060年から現代への提言 (第4回・4班)

# 【成果物の一例】（1班）

メンバーが暮らす将来像（2060年）

1. 将来像(2060年頃)の検討

**総合計画 WS 「2060年の矢巾町」【1班】** 2019.6.17 (土) 公民館大研修室

●キャッチフレーズ●  
教育施設を核とした、環境を重視する住みやすい町、  
そして新産業に挑戦する町

◇エネルギー◇  
・地熱発電でエネルギーが自給できている。  
・ガソリンを使用せず、エネルギー源が変わっている。  
・お金のかからないエネルギーの仕組みができています。

◇交通◇  
・交通安全を気にしないほど、運転が自動化されて、行きたいところに行ける。

◇仕事◇  
・介護などもロボットがしてくれて、手先とかも自動化されて、本人は好きなこと、やりたいことが出来る。→アバター  
・農業も全自動で行なわれている。  
・障害者も差別なく、普通に労働することができる。  
・ロボットを利用した水産業が発展している。→マグロ、キャビアなど  
・情報産業の発達。  
・ハイテク産業の復興。

◇生活◇  
・社会全体が変わり、矢巾町も大きく変わっている。  
・お財布がいらない、手をかざすだけ、本人自身が証明書になる。  
・お祭りがたくさん開催されて、地域のコミュニケーションが深まっている。  
・仕事に専念しなくて良いため、自分の時間が増える。  
・大きな公園が整備され、水辺や畑が飛び交い四季を味わえる。そして、公園の中には、野外ステージも設置されている。  
・セキュリティが万全であり、防犯の心配はなくなる。  
・食料は自給出来ている。  
・広帯のIT化。  
・公園整備によってスポーツする環境が整備されている。

◇文化・芸術◇  
・町のいろいろなところから音楽が聞こえる。  
・子どもと高齢者のボランティア活動の推進。

◇観光◇  
・日本最後の町「矢巾町」一町そのものが観光スポット  
・町の自然風景は変わらない。

◇医療・福祉◇  
・自動化が進み、病院というものが無くなっている。  
・岩手医大のリニューアルのため、移転も着々始めている。  
・医療機器メーカーなどが立地して、岩手医大も大きく発展している。

◇教育◇  
・基本的に自宅で学習を行い、いじめも無くなっている。  
・教育面では、障害者も含めて、様々な差別が無くなっている。  
・学校と企業が連携した「学園都市」になっている。

2. 2019年への提言(2020~23年から取り組んでほしいこと)

班	テーマ No.	施策テーマ(赤字)	正統度	施策 No.	個別施策(赤字)	正統度
1班	1	学園都市を目指した町づくり	★★★	1	岩手や東北大学などの高等教育施設の誘致	★★
				2	夏なると大学講義(進学での選択校がすべて町内にある)	
				3	町でスーパーキッズを育成、スポーツが苦手な子どもの底上げ	★★
				4	学校施設を活用した地域コミュニティスクールの形成	★
				5	岩手医科大学を支援する新法(医療従事者の確保)	★
				6	地域の教育施設と連携を業が連携	★
	2	環境重視の住みやすい町づくり	★	1	町内の防犯情報システムの充実	
				2	ごみ問題、資源ごみのリサイクルを推進して、新しい処理方法やエネルギー供給などの取り組みを推進	
				3	個別の健康診断とオーダーメイド医療の推進	★
				4	福清水産の水産物の供給	★
				5	水産供給ステーションの設置	★
				6	町内の空き家の把握と対応の充実	
				7	社会福祉制度の維持	
	3	人とのつながりを深める町づくり	★★★	1	大きな公園で音楽祭(フェス)を開催	
				2	バスやスクールバスなどの福祉手続改善	
				3	町民全体が楽しめるスポーツの振興	
				4	滞在型の観光を強く振興	
				5	伝統芸能やお祭りなどのイベント開催にて地域コミュニティを活性化	★★
				6	男女共同参画という言葉を無くするように、差別を無くす	
				7	新規企業の誘致及び既存企業の復活(プラス音楽祭賞、賞の贈賞)	★
				8	高齢者の生きがいづくり	★
				9	AIの活用と高齢者のIT化	
	4	産業振興に貢献するまちづくり	★	1	今度次に投資する外国人に対する支援と応対支援	
				2	遊玩水辺施設などに対応した、今年齢を対象とした遊学支援	
				3	障がい者支援の実施のみならず、教員らとしての活用を推進	
				4	町内の衣料関係に強くなる産業振興	
				5	音楽へのハイテク導入に対する支援と販路する人への支援	★
				6	一農業者大学の誘致	
				7	ストーリー性の高い農業特産品のブランド化を推進	★★
				8	情報産業を重視した取り組み	
				9	水産業の創出	★★



未来から2019年への提言

# 5. フューチャー・デザイン ワークショップ成果を反映した 総合計画案の形成



# 住民ワークショップ成果の活用

## ◆計画草案作成段階での成果活用

- ・計画草案は、事務局内の総合計画策定推進会議（役場内ワーキンググループ）で作成
- ・草案作成方針として、ワークショップ提言については将来のため最大限に尊重し、積極的に取り入れる方向性を全員で徹底



全110件の提言のうち、事業レベルの提言である44件を除く  
66件中、55件が採用され計画案の施策に反映（採用率83.3%）

## 総合計画策定までの道のり

- 総合開発委員会（60人委員会）での審議がほぼ終了  
→ F Dに関する否定的意見は無し
- 後期基本計画（素案）が完成  
現在、パブリックコメント（パブコメ）を実施中（～2/9）
- パブコメ終了後、総合開発委員会から町長への答申予定



2月中旬に町議会で議決、計画策定完了の見込み

## 6. 今後の展望について

## 今後の展望について

### 第7次総合計画の施策に フューチャー・デザイン活用の方針が明記



#### ◆今後、あらゆる計画策定や施策展開の場面で フューチャー・デザイン活用の可能性

→各種計画策定や重要な判断の際にF Dを活用

→F Dの制度化（F D活用ガイドライン、条例など）

# 今後の展望について

## ◆まち全体の将来可能性をアクティベート

- 多くの人々がフューチャー・デザインを経験することで、将来視点を持つ住民が増加
  - 草の根レベルから、将来に向け持続可能なまちづくりが住民主体で展開
  - F D タウン = 「未来につよい矢巾町」の実現へ

ご清聴ありがとうございました